

整備事業
産地競争力の強化を目的とする取組用

(佐賀県 平成30年度)

市町村名	事業実施主体名 (対象作物・畜種等名)	メニュー 成果目標の具体的な内容	事業実施後の状況						成果目標の具体的な実績	メニュー 成果目標の具体的な内容	事業実施後の状況						成果目標の具体的な実績	事業内容 (工種、施設区分、構造、規格、能力等)	事業費 (円)	負担区分(円)				完了年月日	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考		
			計画時(平成26年)	1年後(平成27年)	2年後(平成28年)	3年後(平成29年)	目標値(平成29年)	達成率			計画時(平成26年)	1年後(平成27年)	2年後(平成28年)	3年後(平成29年)	目標値(平成29年)	達成率				交付金	都道府県費	市町村費	その他						
																												1等米比率	1等米比率
佐賀市	佐賀県農業協同組合	土地利用型作物(稲)	【稲】1等米比率を10ポイント以上改善	27.6% (平成20~26年(前7中5))	17.6% (146.1t/831.8t)	44.8% (328.4t/732.3t)	61.6% (453.2t/735.2t)	55.0%	124.1%	1等米比率は61.6%となり、目標を達成した。	土地利用型作物(稲)	【稲】高温耐性品種の作付面積割合を5ポイント以上向上	76.8% 151.1ha /196.7ha	71.8% 140.5ha /195.7ha	74.3% 142.1ha /191.2ha	82.9% 167.4ha /202.0ha	82.1% 161.4ha /196.7ha	115.1%	作付け割合は82.9%となり、目標を達成した。	【産地管理施設】 色彩選別機(3.6t/h)1基 初摺り機(3.6t/h)1基	54,318,600	23,761,000	0	0	30,557,600	平成28年2月16日	1等米比率については、色彩選別機の導入により、青未熟粒等の選別ができたため、目標を達成できた。 また、高温耐性品種作付面積については、もちの価格下落によりさがびよりへの作付転換が進んだことにより目標を達成できた。	成果目標を達成しており、十分な事業効果が得られた。	
佐賀市	佐賀県農業協同組合	土地利用型作物(稲)	【稲】1等米比率を10ポイント以上改善	77.8% (平成20~26年(前7中5))	43.6% (140.7t/323.0t)	90.7% (328.5t/362.1t)	74.2% (270.1t/364.1t)	87.8%	-36.0%	1等米比率は74.2%となり、目標を達成できなかった。	土地利用型作物(稲)	【稲】高温耐性品種の作付面積割合を5ポイント以上向上	59.5% 114.9ha /193.2ha	55.5% 107.4ha /193.6ha	54.6% 101.8ha /186.4ha	55.6% 104.9ha /188.8ha	64.5% 124.6ha /193.2ha	-78.0%	作付け割合は55.6%となり、目標を達成できなかった。	【産地管理施設】 色彩選別機(3.6t/h)1基 初摺り機(3.6t/h)1基	47,888,820	22,085,000	0	0	25,803,820	平成28年3月1日	コシヒカリに高温障害がみられ上位等級率が悪く成果目標を達成できなかった。 また、コシヒカリは夢しずくよりも倒伏や高温障害を受けやすいため夢しずくの作付拡大に取り組んできたが、コシヒカリの方が刈取り時期も早く単価も高いため高温耐性品種作付面積の拡大ができなかった。 今後は、高温耐性品種である夢しずくへの転換を進め、上位等級率の向上を図る。	水稲については、コシヒカリが高温の影響を受け、1等米比率の目標が達成できなかった。 また、高温耐性品種の作付割合については、刈取り時期や単価の違いからコシヒカリの作付けが減少せず、目標を達成できていない。 今後は関係機関が連携し、技術指導及び高温耐性品種の作付けの推進を行う。	
吉野ヶ里町	佐賀県農業協同組合	土地利用型作物(稲)	【稲】1等米比率を10ポイント以上改善	42.6% (平成20~26年(前7中5))	38.5% (125.6t/326.1t)	68.2% (220.1t/322.9t)	64.4% (209.6t/325.1t)	52.7%	215.8%	1等米比率は64.4%となり、目標を達成した。	土地利用型作物(麦)	【麦】下位等級指数を5割以上削減。	2.6 (平成20~26年(前7中5))	0 (0t/135t*100)	0 (0t/237t*100)	0 (0t/277t*100)	1 (2.2t/220.0t*100)	162.5%	下位等級指数は0となり、目標を達成した。	【産地管理施設】 色彩選別機(3.6t/h)1基 オートハカスゲル(200袋/h)1基 ウツリライザ(200袋/h)1基	40,200,300	18,445,000	0	3,689,000	18,066,300	平成28年3月22日	1等米比率及び麦の下位等級指数については、色彩選別機を導入により、青未熟粒等の選別ができたため、目標達成できた。	成果目標を達成しており、十分な事業効果が得られた。	
佐賀市	佐賀県農業協同組合	野菜(玉葱)	【野菜】単位面積当たりの労働時間の削減	131.32h/10a (平成26年度)	-	96.01h/10a (平成28年度)	62.98h/10a (平成29年度)	76.15h/10a (平成29年度)	123.9%	玉葱栽培、出荷の単位当たりの労働時間は52%削減された。	野菜(玉葱)	【野菜】単位面積当たりの販売額の増加	488,196円/10a 面積:16.33ha 販売額:79,722千円 (平成26年度)	409,864円/10a 面積:39.50ha 販売額:161,908千円 (平成28年度)	332,996円/10a 面積:48.49ha 販売額:161,470千円 補正係数:1.146 (平成29年度)	547,270円/10a 面積:16.33ha 販売額:89,369千円 (平成29年度)	-262.7%	玉葱の単位面積当たりの販売額が32%減少した。	集出荷貯蔵施設 低温乾燥貯蔵施設 ・除湿機(12.0L/H) ・冷却機能付除湿機(20.0L/H) 玉葱調整機(処理能力5t/h)	27,099,792	12,546,000	0	0	14,553,792	平成28年3月31日	天候不順により単位面積当たりの収量が減少か、販売高は減少したが、単位面積当たりの労働時間は大幅に削減できた。 今後は天候不順に対応できる排水対策等を行い、収量増加による目標達成を目指す。	貯蔵や機械による選果、調整の利用希望者も増えており、労働力の削減については調整作業の削減により目標達成ができ、当該地区において、事業効果が発揮された。 天候不順やべと病等の病害の発生により単位面積当たりの収量が減少し、事業実施前より収量が減少したが、今後は天候不順に対応した耕種対策や、病害の効率的な防除を推進し、収量を増加させることで目標達成を図りたい。		
唐津市	唐津農業協同組合	農畜産物輸出に向けた体制整備(いちご)	【野菜】単位面積当たりの販売額の増加	4,514千円/10a 面積:4,432a 販売額:2,000,448千円 (平成25年度)	4,876千円/10a 面積:3,602.5a 販売額:1,756,613千円 (平成27年度)	4,996千円/10a 面積:3,525.7a 販売額:1,761,348千円 (平成28年度)	4,826千円/10a 面積:3,387.3a 販売額:1,634,561千円 補正係数:0.962 (平成29年度)	5,200千円/10a 面積:3,691a 販売額:1,919,320千円 (平成29年度)	45.5%	いちごの単位面積当たりの販売額が7%増加した。	農畜産物輸出に向けた体制整備(いちご)	【野菜】輸出向け出荷量増加	729.3kg (平成25年度)	812.7kg (平成27年度)	1,101.6kg (平成28年度)	1,355.4kg (平成29年度)	1,060kg (平成29年度)	189.3%	いちごの輸出向け出荷が86%増加した	集出荷貯蔵施設 ・光センサー選果機一式 ・予冷施設(775㎡) ・処理量(1,500t/年)	707,369,760	327,486,000	0	65,497,000	314,386,760	平成28年2月29日	作付け面積は減少したものの、安定出荷と前半の収益アップが図れたことにより、単位面積当たりの販売額が502千円増加したが、県全体の価格補正(0.962)を乗じ、4,826千円/10aの結果であった。また、香港向けの出荷実績も増加となった。今後は環境制御技術等に取り組み収量増による目標達成を目指す。	単位面積当たりの販売額の増加については、作型の前進化による単価上昇などにより、事業効果はみられているものの、定植期の降雨による定植の遅れや活着の遅れ、厳寒期の日照不足、低温による生育停滞などにより、収量が伸び悩み、目標達成には及ばなかった。今後、環境制御技術や新品種導入による早期収量の増加や、単価のさらなる向上による目標達成を図る。 輸出向け生産量の増加については、施設を利用した共選により、安定した品質のものを輸出しており、目標を大きく達成したことから、事業効果が発揮されている。	

白石町	佐賀県農業協同組合	野菜(玉葱)	【野菜】単位面積当たりの労働時間の削減	161.1h/10a(平成26年度)	-	158h/10a(平成28年度)	146h/10a(平成29年度)	143.3h/10a(平成29年度)	84.8%	玉葱栽培、出荷の単位当たりの労働時間は9%削減された。	野菜(玉葱)	【野菜】単位面積当たりの販売額の増加	153,065円/10a 面積：63.6ha 販売額：97,349千円(平成26年度)	128,660円/10a 面積：20.35ha 販売額：26,182千円(平成28年度)	158,623円/10a 面積：41.43ha 販売額：65,718千円 補正係数1.204(平成29年度)	184,884円/10a 面積：63.6ha 販売額：117,586千円(平成29年度)	17.5%	玉葱の単位面積当たりの販売額が4%増加した。	集出荷貯蔵施設 たまねぎ予措保管施設(1棟・828㎡) 処理量(589t/年)	28,956,960	13,208,000	0	0	15,748,960	平成28年3月25日	除湿倉庫への入庫により自家貯蔵作業への労働時間削減が出来、一定の効果を得ることができた。販売額については、べと病害による単価の低迷により単位当たりの販売額の増加効果が薄かった。今後は、圃場排水対策を講じ、圃場で乾かした収穫物を倉庫に格納することで品質を向上させ、単価増による目標達成を目指す。	労働力の削減については調整作業の削減によりおおむね目標達成ができていますが、べと病防除に労力が多くなり、目標が達成できていない。 また、天候不順やべと病害の発生等もあり、事業実施前と比較して収量は増加したものの、べと病等により単価が減少し目標達成に及ばなかった。今後は天候不順に対応した耕種的対策や、べと病害の効率的な防除を推進し、労働時間の削減と収量を増加させることで目標達成を図りたい。
-----	-----------	--------	---------------------	--------------------	---	------------------	------------------	--------------------	-------	-----------------------------	--------	--------------------	---	--	---	--	-------	------------------------	---	------------	------------	---	---	------------	------------	--	--

都道府県平均達成率	58.5%	総合所見	<p>「高温耐性品種の作付割合」を達成できなかったものが土地利用型作物(稲)で1件、「1等米比率の改善」を達成できなかったものが土地利用型作物(稲)で1件であった。</p> <p>目標が達成できなかった理由は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地利用型作物(稲)では、「高温耐性品種の作付割合」については、夢しずくに比べコシヒカリの方が刈取り時期が早く、単価も高いことからコシヒカリの作付面積が減少しなかったため、「1等米比率」については、高温による粒の充実不足等が多かったためと考えられる。 今後は関係機関と連携し、適期播種や適期防除、適正管理の実施など技術指導や作付推進を行っていく。 ・佐賀市の玉葱については、労働時間の削減は達成できたが、販売額増加の目標は達成できなかった。販売額増加の目標達成のために事業を活用した排水対策などによる増収を支援していく。 ・唐津市のいちごについては輸出向け出荷量の目標は達成できたが、販売額の目標が達成できなかった。販売額増加の目標達成のために品種の検討や収量向上のための支援をしていく。 ・白石町の玉葱については、労働時間の削減はできているが、目標達成とはいかず、販売額についても目標を達成できていない。事業の活用による病害対策や排水対策により、労働削減や増収を支援していく。
-----------	-------	------	--

(注) 1 別紙様式1号の2の に準じて作成すること。
2 要綱第3の4の(2)のアのただし書きの場合にあっては、事業実施後の状況の欄を追加し、記入すること。
3 別添として、各事業実施主体が作成した事業実施状況報告書を添付すること。
4 「事業実施主体の評価」欄と、「都道府県の評価」欄については、評価の対象となる年度のみ、それぞれの所見を記入すること。
5 「総合所見」欄については、評価実施年度の取組について、都道府県全体の総合所見を記入すること。
6 「都道府県平均達成率」欄は、都道府県において事業実施地区で掲げている成果目標毎の達成率の平均値とする。